

ネットで目にした切手から 2

時に足元をすくわれるような指摘を聞き、考えさせるBSのTV番組「COOL JAPAN」。この日は立場を逆に日本人が抱く、外国人の理解できない行動にせまる「外国人への大ギモン!」シリーズ。その中で海外赴任経験者など外国人の日常をよく知る日本人にアンケートした中から「なぜ外国人は下着にアイロンをかける?」を取り上げていた。若い女



性が美しきレース飾りのついた下着にアイロンをかけている画面が映し出された。それを見て頭に浮

かんだ切手があった。2012年ルーマニアで2回に分けて発行された Pressing Irons (アイロン) シリーズ切手 14 種である。なんでアイロンが切手にシリーズで取り上げられたんだろうと疑問に持ち続けていた。番組が進むにつれていくつか答えを得られた。



外部で熱して使用するアイロン

欧州ではアイロンがけが家事の重要な領域を占めているようで調理、洗濯、掃除と同等の位置付けを持っていたらしく、アイロンがけのために家政婦を雇うことが行われているという。確かに、18 世紀の絵画の中に家政婦を描いたものの多くがアイロンがけのシーンを描いている。なぜ、アイロンがけをするのか。居住環境、日照時間の影響であろう太陽光に代る殺菌効果を求めていることだという。



1700 年代英国の家政婦を描いた絵画

番組ではジーンズも軟らかくなり、下着等は収納にも便利なことも述べられていた。

切手発行の目的がよく判らぬが、同時に発行された小型シートの「INDUSTRIAL EXPORT MADE IN RUMANIA」表示、農業国ルーマニアの誇る工業製品の輸出品だったア



イロンを切手にしたのであろう。ベルギー、イタリア、スコットランド、ドイツ等、国別に輸出されたアイロンが描かれている。やっと、切手発行の背景に日本と異なる生活習慣の存在を理解した。

上に INDUSTRIAL EXPORT 下に MADE IN RUMANIA アイロンにスリム MADE は薄く判りにくい と太めがある。スリムは外部で熱し、ふとめは木炭、石炭を内部で燃やして熱するタイプと考えられる。中国、日本では火熨斗 (ひのし) がアイロンであるがその形態からして Press 効果は明らか。衣類の材質によるかと推察する。このシリーズで珍しいものを知った Mangles というのか、昔のローラー式脱水機に形状の似た手回しハン



本体で木炭を燃やして使用するアイロン



東洋のアイロン
火熨斗 (ひのし)

ドルがついたアイロンである。衣類より布地、シーツ類に用いるようだ。このアイロン、現在でも、欧米では健在で足踏みスイッチで働く電化製品として見

けることができる。

我国に、このようなアイロン使用の生活習慣が広まるには電力事情、電気料金が高いハードルと考えた。(編集子)

